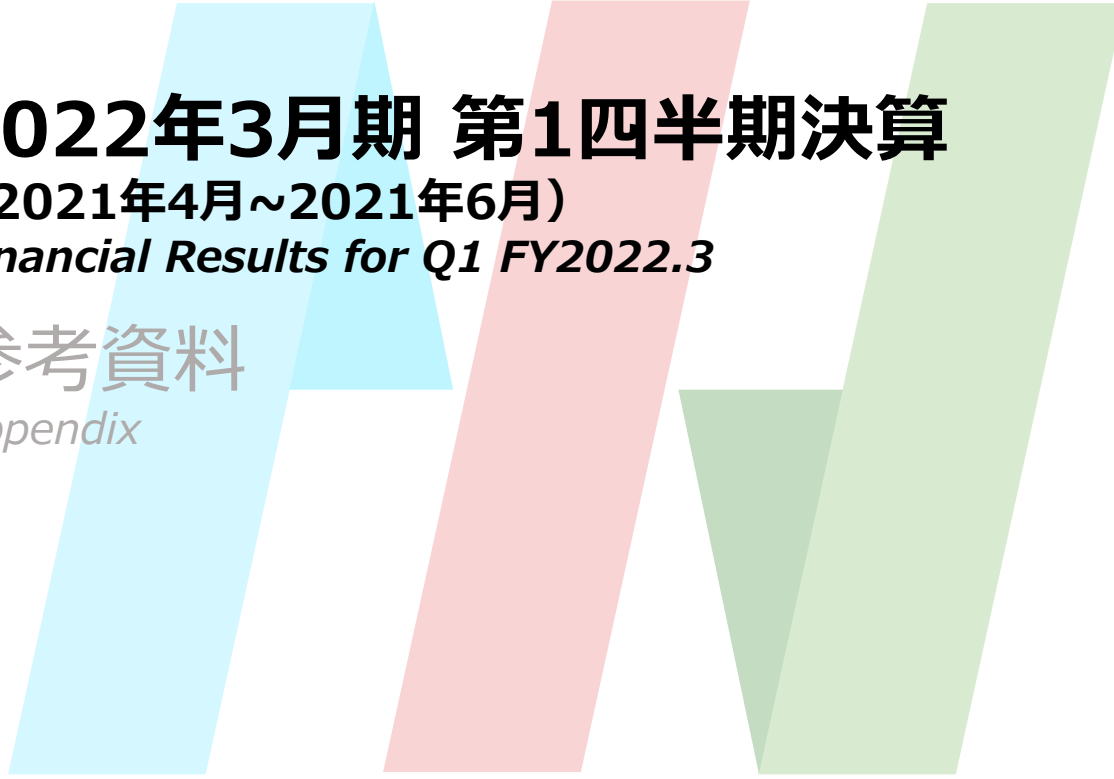


2022年3月期  
第1四半期決算  
説明資料

2021年7月

アサヒホールディングス株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



**I. 2022年3月期 第1四半期決算**  
(2021年4月~2021年6月)  
*Financial Results for Q1 FY2022.3*

II. 参考資料  
*Appendix*



# 連結業績

(単位：億円)

	2020年1Q		2021年度1Q	
	実績		実績	増減
売上収益	392		504	112
営業利益	53		69	17
営業利益率	13.4%		13.7%	0.3%
税引前利益	53		68	15
当期利益 ※	36		48	12
減価償却費	6		7	1

※ 親会社の所有者に帰属する当期利益



# 新型コロナなどによる影響（対前年同期比）

## ■ 貴金属事業

国内・アジアの貴金属リサイクル分野は、IoTやスマホ等の製造関連および自動車関連の回収量が増加し、デンタル分野の回収量もほぼ横ばいを確保。

分野	事業環境
デンタル	感染症対策強化による診療制限は続いているものの、回収量はほぼ横ばいを確保
宝飾	買取需要の低下で買取業者からの回収量が減少したが、製造系の回収量は復調傾向
触媒	国内は自動車の買い替え需要回復により回収量は増加、海外は東アジア地域からの回収量が増加
エレクトロニクス分野	IoT関連や車載、5Gスマホの生産好調に加え、ICT用途の分野拡大で回収量が増加
北米精錬	製品加工・販売は増加したが、裁定取引などの金融取引は減少

## ■ 環境保全事業

教育機関からの回収量はほぼ横ばいを確保し、自動車業界や医療業界、化学産業からの回収量は増加したが、建設業界や外食業界は依然として低迷。

業界	事業環境
教育・研究機関	ほぼ横ばいの回収量を確保
建設	依然として低迷が続いており、木くず、板ガラスなどの回収量が減少
自動車	回復傾向にあり、廃液などの回収量が増加
食品	食品メーカーの影響は限定的だが、外食需要の低下が継続しており、残渣物やガラスびんの回収量が減少
医療	医療系廃棄物の回収量や焼却処理が増加
化学	消毒薬関連等の回収量が増加



# 貴金属事業セグメント

## ■ 貴金属リサイクル事業分野（国内・アジア）

貴金属価格上昇と貴金属回収量の確保により大幅増益

## ■ 北米精錬事業分野

製品加工・販売は増加したが裁定取引の減少により減益

（単位：億円）

貴金属	2020年度1Q	2021年度1Q
	実績	実績
売上収益	350	463
営業利益	53	72
利益率	15.1%	15.5%



# 参考：貴金属回収量及び貴金属価格の推移

## 貴金属リサイクル 回収量

(単位：kg)

	2020年度1Q
	実績
金	4,447
パラジウム	1,605
銀	17,145
プラチナ	967

2021年度1Q	
実績	増減
4,153	△294
1,576	△29
18,192	1,047
1,287	319

## 貴金属価格（1gあたり）

(単位：円)

	2020年度1Q
	期中平均
金	5,950
パラジウム	6,986
銀	58.1
プラチナ	2,839

2021年度1Q	
期中平均	前期比
6,421	108%
9,805	140%
95.4	164%
4,241	149%



# 環境保全事業セグメント

## ■ プラス要因

産業廃棄物回収量の確保、処理単価の値上げ

## ■ マイナス要因

インターセントラルの連結除外、新炉稼働に伴う固定費増加

(単位：億円)

環境保全	2020年度1Q	2021年度1Q
	実績	実績
売上収益	42	42
営業利益	7	7
利益率	16.1%	16.0%

(単位：億円)

	2021年 3月末	2021年 6月末	増減	備考
流動資産	1,920	2,090	170	
営業債権	<b>1,008</b>	<b>1,208</b>	<b>200</b>	営業債権残高の約9割および増減額の大部分は <b>北米事業における前渡し等のための借入金見合いの債権</b> 。
棚卸資産	<b>635</b>	<b>644</b>	<b>9</b>	棚卸資産残高および増減額のほぼ全てが貴金属リサイクル事業における <b>貴金属含有物の回収原料/仕掛品/製品</b> 。回収時に貴金属含有量を分析してから仕入れていること、また仕入れと同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスク、品質劣化リスクともに極めて限定的</b> 。
その他	277	238	△39	
非流動資産	528	528	△1	
資産計	2,448	2,617	169	
負債	1,469	1,600	131	
社債及び借入金	<b>1,048</b>	<b>1,232</b>	<b>184</b>	借入金残高の約9割および増減額の大部分は <b>北米事業における前渡し等のための借入金</b> 。原料入荷後に貴金属含有量を分析し、その範囲で借入を行っていること、また借入金の返済期日にあわせて先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的</b> 。
その他	421	367	△54	
資本	979	1,018	39	
資本・負債計	2,448	2,617	169	



(単位：億円)

	2021年度 1Q	備考
営業CF	△32	
棚卸資産の増加	△8	増加額のほぼ全額が貴金属リサイクル事業における <b>貴金属含有物の回収原料/仕掛品/製品の増加額</b> 。回収時に貴金属含有量を分析してから仕入れていること、また仕入れと同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスク、品質劣化リスクとも極めて限定的</b> 。
営業債権他の増加	△192	増加額の内、△220億円は北米事業の前渡し等のための借入金見合いの <b>債権の増加額</b> 。原則として原料入荷後に貴金属含有量を分析し、その範囲で借入を行っていること、借入金の返済期日にあわせて先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的</b> 。
営業債務他の増加	104	増加額の内、78億円は北米事業の前渡し等のための <b>借入金の増加額</b> 。借入金の増加額の内、北米事業の前渡し等のための借入金の増加額は、財務CFではなく、営業CFの営業債権の増加額として表示される。この借入金はすべて前渡し等のためのメタル調達に使われるため、 <b>品質劣化リスクや貸倒リスクはない</b> 。先物取引で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスクも極めて限定的</b> 。
その他	64	
投資CF	△19	
財務CF	63	
借入金の増減	99	
配当金	△35	
その他	△1	
換算差額	△2	
現預金の増減額	9	

## 基本方針：

成長戦略のための設備投資やM&Aに必要な内部留保充実を図りながら、配当性向40%を目処とし、現在の年間配当水準から目減りさせず、安定的に配当を継続する。

	第8次中期経営計画					第9次中計
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 (予想)
1株当たり利益（円）※	△18.62	135.39	114.07	125.12	326.90	231.27
年間配当（円）※	30	31.5	60	65	85	90
配当性向（%）	-	23.3	52.6	52.0	26.0	38.9

※ 2021年4月1日に1:2の株式分割を実施しており、2020年度までの1株当たり利益および年間配当は分割後のベースに換算



# RJC CoC認証の取得

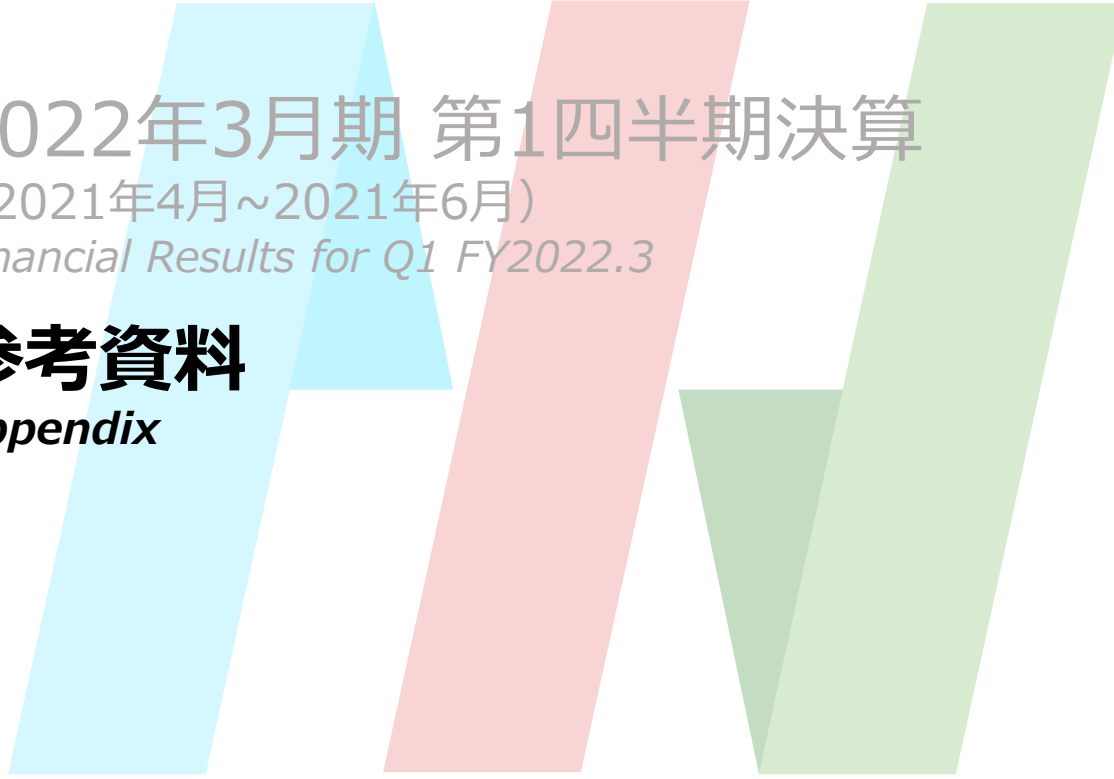
- アサヒプリテック(株)は、2021年7月14日にRJC※（Responsible Jewellery Council：責任あるジュエリー協議会）のCoC認証（Chain of Custody：加工・流通過程管理）を取得
- 2019年7月29日にRJC CoP認証（Code of Practices：行動規範）を取得しており、RJC CoPおよびCoCのダブル認証を取得しているリファイナリーは、国内では当社のみ



SDGs重点テーマの1つである「人・社会・環境にやさしい貴金属供給」に対応するため、人権や環境に配慮した貴金属製品として世界中のお客様に安心してご利用いただける「アサヒブランド」の構築と維持に努める



※RJC（Responsible Jewellery Council：責任あるジュエリー協議会）：  
金やプラチナ、ダイヤモンドなどを取り扱う宝飾業界を対象とし、取引の透明性や倫理・環境面での取り組みを評価する国際的非営利団体



I. 2022年3月期 第1四半期決算  
(2021年4月~2021年6月)  
*Financial Results for Q1 FY2022.3*

II. **参考資料**  
*Appendix*

# AW 貴金属事業の主な収益要素

## 貴金属リサイクル事業：

- 精錬手数料は固定的な安定収益。そこに収率差異による収益がプラス。

## 北米精錬事業：

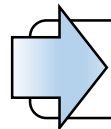
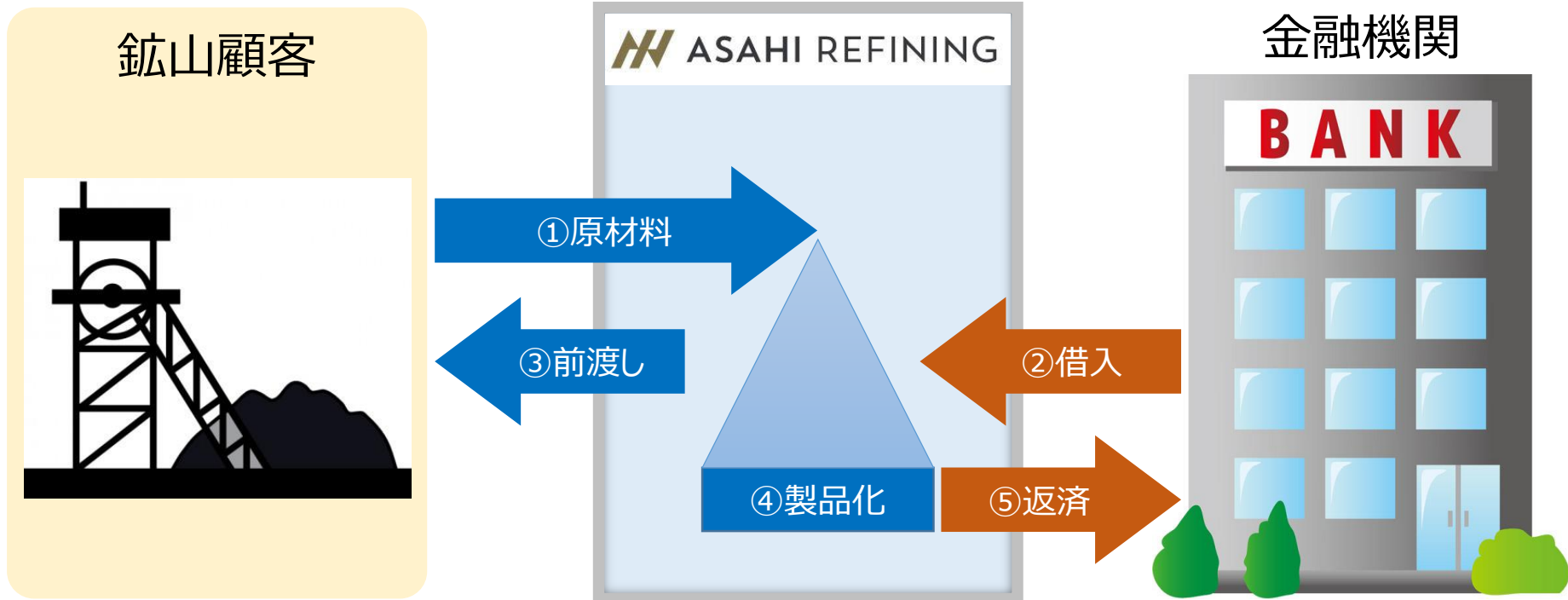
- 精錬手数料は安定収益。金融収益は原料入荷量が増加すれば収益機会が増える。

事業分類	区分	収益影響
貴金属リサイクル	精錬手数料	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 回収量が増えれば精錬手数料は増加する。</li> <li>■ 精錬手数料の単価は前処理が難しいものほど単価が高くなるため、難処理物の回収割合が高くなれば平均単価は高くなる。</li> </ul>
	収率差異（実収率と契約収率との差異＝フリーメタル）	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術力向上、工程改善により、実収率が上がればフリーメタルが増加する。</li> <li>■ 相場が上昇すればフリーメタルによる収益が増加する。</li> </ul>
北米精錬	精錬手数料	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 精錬原料（ドーレ）の入荷量が増えれば手数料は増加する。</li> <li>■ 長期契約のため手数料単価は短期的には変動しない。</li> </ul>
	収率差異（実収率と契約収率との差異＝フリーメタル）	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術力向上、工程改善により、実収率が上がればフリーメタルの数量が増加する。</li> <li>■ 相場が上昇すればフリーメタルによる収益が増加する。</li> </ul>
	金融収益	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 原料入荷量が増加すれば金融取引による収益機会が増加する。</li> <li>■ 鉱山との間の契約で前渡し金利の利率が改善すれば収益は増加する。</li> <li>■ 前渡しの期間が長くなれば収益は増加する。</li> <li>■ メタル調達コストが下がれば金利スプレッドが拡大し、金融収益は増加する。</li> </ul>



# 北米金融サービスの代表例：前渡し取引

- 原材料入荷から製品返却までの納期を短縮して製品を返却する「前渡し」を提供。
- 契約納期前のメタル返却に応じることで、顧客から「前渡し日数分の金利」を得る
- 原材料を受領してから前渡しを行うため、貸倒リスクはない。



仕組み金融等の新たなファイナンスサービス開発



# 金属価格推移 [ 金・銀 ]

[ 単位 : 円/g ]

## 金



## 銀





# 金属価格推移 [パラジウム・プラチナ]

[単位：円/g]

## パラジウム



## プラチナ

